

## 巻頭言

## 2021年の全国大会に向けて

細見 岳生

(NEC データサイエンス研究所)



コロナ禍の中で急遽オンライン開催となった2020年度の第34回全国大会も無事終えることができました。一方、2021年度の全国大会の企画も始まっており、多数の充実した研究発表があり、活発な議論が行われる全国大会になることを目指しております。また、参加者の皆様が安全に参加することができることも重要な目標になります。そのため、これまで、2021年度全国大会は仙台開催とアナウンスさせていただいていましたが、2021年度もオンライン開催とすることを決定しました。感染状況の改善がなかなか見えず感染対策の長期化が予想されること、感染対策が現地開催では困難であることなどがその理由になります。仙台開催を楽しみにしていただいた皆様には大変申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

前回2020年の第34回大会では、森川幸治大会委員長 (Connect)、木村昭悟実行委員長 (NTT)、片上大輔プログラム委員長 (東京工芸大学) のもと、発表申込件数は約1000件近くと昨年度と比較して200件近い増加となり、また2300名と多数の参加者を集めて活況な大会となりました。初のオンライン開催ではありましたが、参加者の皆様からはおおむね満足したとのフィードバックもいただきました。現地開催では部屋の席数の制限などがあり参加できないセッションがあったなどの不満がありましたが、オンライン開催ではそれがなく聴講の自由度が増したなど、満足度の向上につながりました。一方、インタラクティブセッション (ポスタ発表) や参加者交流会などは、研究者が集い対面でコミュニケーションを行う現地開催が活きる企画であり、オンライン開催に課題を感じました。

2021年度の第35回大会は、コロナ禍での開催となることが予想されることから、オンライン開催とすることを決定しました。さらに満足度を高めるべく、その開催形態の議論を市瀬龍太郎大会委員長 (NII) のもとと企画を進めております。多数の発表が想定される中で、発表者および聴講者の皆様に満足していただける大会とするべく、相互に議論ができる場の提供、多くの発表を聴講できる仕組みなど、オンラインの利点を生かした仕掛けを導入していきたいと考えております。課題であるインタラクティブセッションなどについても2020年度とは違った仕組みを導入して改善を図っていきます。また、松下光範プログラム委員長 (関西大学) のもと、さらに魅力的なプログラムとなるように企画が進んでおります。一般セッション、オーガナイズドセッション、企画セッション、インダストリアルセッション、チュートリアルセッション、国際セッションなど多くは2020年の活動を継続していきます。また、国際セッションについては、全国大会およびそれに参加する研究者の世界的プレゼンスを向上させるために、他の国際学会との共催を企画しております。それぞれの参加者が他方の発表も聴講できるようにすることにより大会の魅力を増すとともに、そこで発表する研究者のプレゼンスの向上を図ります。

一方、もともと企画していた仙台での開催ができなかったことは、残念でもあります (図1は会場予定であった仙台国際センター)。現地開催には、多数の人が1か所に集まり賑わいを感じることもできる、双方向の議論がしやすい、新しい人との出会いやつながりをつくることなど、オンライン開催では難しい多数の魅力があります。また会場外でのコミュニケーションを、現地の魅力的な食事やお酒を味わいながらできることも大きな魅力の一つかと思えます。将来的には、新しい社会の在り方に対応した学会の形として、現地開催とオンライン開催の両方の魅力を併せもった新しい開催形態を、全国大会に参加の皆様とともにつくっていくことになると思います。

最後にはなりますが、2021年度の全国大会への皆様の発表および聴講申込みを心よりお待ちしております。



図1 会場予定であった仙台国際センター